

第47回(2024年度)全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会【戦評】

会場：千葉県国際総合水泳場 【2025/3/30】

B決勝

石川イーグルス 13 3 明大中野中学校

3	—	1
4	—	1
4	—	1
2	—	0

PSO

高橋 大

審判:

柳淵 祐希

この試合のプレー集計

石川イーグルス	20	SH数	19	明大中野中学校
	2	速攻数	5	
	12	ST・SB	7	
	15	SH・P誘発アシスト	4	
	75%	GK阻止率	13%	
	3	EX反則数	7	

ST・SB: ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

夏JO覇者・石川イーグルスが順当に決勝戦までコマを進めたのに対し、厳しい戦いを粘り強く勝ち上がってきた明大中野中。予選段階では石川13-3明大中野中(コールドゲーム)と大差がついたが、この世代の水球は一戦ごとに大きく変化するだけに、明大中野中が攻撃力のある石川にどう対処するか。石川②前田の攻撃を明大中野中がどう防ぐか。石川はほとんどこのメンバーで戦った桃太郎カップでは、広島ギャップ位置で守る水球に手を焼いて敗戦した経験を活かし、夏春連覇を果たせるか。

<1P>

お互いに探り合い状態で序盤が経過したが、石川の退水攻撃時のシュートを明中GK①上山セーブを起点に明中が攻勢に。⑩原口がセンターで退水を誘発して、④福井が決めて明中が先制。しかし石川も直後の攻撃でエース②前田が決めると、同様のパターンで②前田のセンターシュートで3連続得点。石川3-1明中で第1ピリオド終了。石川は基本通りの右サイドからのパスをセンターが受けて得点するパターン。明中も懸命に攻撃するが、石川のような基本形が不足し、シュートも石川側に読まれてしまう展開。

<2P>

第2ピリオドも石川ペース。⑤亀口が退水誘発を連続し、そこを②前田らが決める理想の展開。対する明中は2:20に④福井のセンターSHで1点を返すのがやっと。一気に点差が開き、石川7-2明中と予選段階と似たような展開となった。明中は石川のセンター②前田への意識を高めた結果、外周、特に石川右サイド選手へのケアが不足してしまい、右サイドからのパス出しを容易にさせてしまう状況が続いていた。逆に石川側のDFは中央付近を軸に各選手がギャップ位置で明中のドライブやパスをケアする形。いわゆる「コンパクト」で守ることができていたため、安定したDFからの飛び出し、パス出しと自分たちの水球ができる展開となっていた。

<3P>

明中は石川のパスミスをついて、⑨山崎がペナルティを誘発。そこを決めて3点目を挙げたが、この得点が最後になってしまった。その後も、明中ボールを奪ってから泳ぎで明中DFを崩し、シュート選手への確かなラストパスを投じる展開が続いて4連続得点。石川11-3明中で第3ピリオド終了。予選リーグ戦とほとんど似たような展開となった。明中にもチャンスがあり、泳ぎもボールつなぎもできているのだが、ゴール前に攻め込む選手にどうラストパスを投じるかの「流れ」が共有できていない状況。特に右サイドで攻撃参加する選手へのパスを出せない、あるいはその選手も2mライン近くまで切り込もうとしないなど、右サイドから石川DFを崩すことができず、難しい態勢や位置でセンターに入った選手がボール処理に苦労していた。そこでボールを失って石川攻撃を許すという悪循環。

<4P>

優位に立った石川は攻撃ペースを緩め、右サイドからの攻撃が影を潜めたため、双方得点に至らない状況が続いた。残り時間1分を切ってから、石川攻撃も息を吹き返し、センター②前田が退水誘発からの得点、さらにセンターSHと2連続得点をマークし、石川13-3明中で石川が夏春連覇を達成。この決勝戦のスコアも10点差になった時間も予選とほとんど同じで、明中側としては同じ負けを繰り返した結果となった。

今回、A/B/Cの全区分で、夏を制したチームが夏春連覇を達成した形となった。